

佐那河内小学校
「学力実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

小中学校9年間を見通した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 委員 校長：倉橋誠一 教頭：森永直美
教務・国語主任：清水 愛
堀井 晴美 特別支援コーディネーター：和田久美子
人権教育主事・低学年推進員：川上可南子
高学年推進員：山崎 仁 算数主任：福田明美

校長

倉橋 誠一



【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等，様々な機会を捉え，取組状況の把握を行う。

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○漢字・計算などの基礎的な力が定着してきている。 与えられた課題に対して真面目に取り組む児童が多い。 ●どの学年も身に付けた知識・技能を活用して問題を解決することに課題がある。語彙が少なく、読解力に影響している。学力差が大きい。	・基礎的・基本的な力を確実に身に付け、様々な学習場面や生活で活用することができる。 ・語彙を増やすとともに、適切な言葉や漢字を使って、文章を読んだり書いたりすることができる。	・小テストやドリル学習などを行い、基礎的・基本的な力の定着を図るとともに、個々の到達度を把握した上で IT 指導やタブレットを効果的に活用しながら、個に応じた指導をする。 ・様々な文章にふれさせたり、語彙を広げたりするために、読書を奨励するとともに、日記や作文、授業での書く活動等を多く取り入れ、表現や語句、漢字が適切に使用できるよう指導する。 ・身に付けた知識・技能を活用する場面を意図的に取り入れた授業を展開する。	・漢字・計算等の基礎的・基本的な力の定着が図られつつあるが、漢字を適切に使用することはまだ不十分である。今までの取組に加え、熟語等の意味調べをすることを取り入れ、語彙を増やすとともに適切に漢字を使用する力を身に付けるようにする。 ・個々の特性に応じた支援を工夫した授業づくりを継続する。	・朝の学習の時間に小テストやドリル学習を行った結果、漢字・計算等の基礎的・基本的な力の定着が図られた。 ・辞書に親しめることで、言葉に興味・関心をもち、語彙を増やそうとする児童が増えてきた。 ・書く分量や書き方をスモールステップで指導・支援することで、自分の考えを書くことができるようになってきている。	・さらなる基礎・基本の定着を図るとともに、身に付けた知識・技能を生活の中で活用する力を身に付けることに重点をおく。 ・学習規律を徹底させるとともに、個に応じた指導・支援のあり方について共通理解を深め、同一歩調で学力向上に努める。

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○既習事項をもとにして考え、自分の言葉で表現しようとする児童が少しずつ増えてきた。タブレットを活用して、課題解決のために必要な資料を適切に選択する児童が増えてきた。 ●筋道立てて説明したり、友達の考えを受けて自分の考えを再構築したりする力に課題がある。	・既習事項をもとにして考え、自分の言葉で伝えたり、理由などを説明したりすることができる。 ・友達の考えを自分の考えと比べながら聞き、それに対しての感想や意見を、根拠や理由を明らかにしながら話したり書いたりすることができる。	・授業では、児童が考えを書いたり、交流したりする場を設定する。（書く活動を重視する） ・「聞き方・話し方ナビ」や思考ツール、考えを表現するための手引き等を活用し、どの児童も意見を言ったり説明をしたりすることができるようにする。 ・ペアやグループ等の学習形態を工夫したり、タブレット、ホワイトボード等を活用したりして、考えを 深め、学び合う学習集団づくりに努める。	・自分の考えを表現する力は身に付きつつある。今後は、考えを交流した後、自分の考えを再構築したり、根拠を説明したりすることに重点をおくようにする。作文読本への応募等、書く活動への意欲を高める工夫をする。 ・語彙を増やしたり反応の仕方を示すなど、さらに充実した話し合いができるようにする。	・考えを自分の言葉で書いたり発表したりする児童が増えてきた。 ・学級会での話し合い活動を通して、聞き方や話し方が身に付いてきた。 ・考えの根拠を筋道立てて話すことや、友達の意見との共通点や相違点を見いだしながら聞くことに課題がある。	・引き続き学習形態の工夫や ICT の活用等をし、考えを伝え合う機会を増やす。 ・話し方・聞き方ナビをさらに活用し、自分の考えを相手意識をもって伝えたり、考えの根拠を明らかにしながら筋道立てて話したりする力を伸ばす。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○各教科の学習や家庭学習に、意欲的に取り組むことができる。 ●課題解決や苦手を克服するために、自らの学びを振り返り学習計画を立てて取り組んだり、粘り強く続けたりすることに課題がある。	・学びを振り返り、自らの課題を解決するための計画を立て、実践することができる。 ・課題や自主学習に積極的に取り組み、学ぶ楽しさを感じ、自分をより高めたいという意欲をもつことができる。	・主体的な学びとなるよう、課題の提示の仕方を工夫する。また、振り返りの視点を示し、児童自らが学びについて振り返り、満足感と次時への意欲を高めることができるようにする。そして、児童の振り返りと教師の見取りを指導に生かしていく。 ・「家庭学習の手引き」を配付し、家庭と連携しながら家庭学習の内容を充実させたり、読書の習慣化を図ったりする。 ・ICT を効果的に活用し、学習に対する興味・関心を高める。 ・優れたノートを紹介したり学習の仕方を示したりすることで、自主学習の質を高める。	・自らの学びについて振り返り、次時の授業に自分なりの目標をもって臨もうとする児童が増えつつある。今後も取組を継続する。 ・ICT を個別最適な学びに活用する機会が増え、児童が主体的に学ぶ姿が見られるようになってきた。学習意欲を高めるために、協働的な学びにも活用する。 ・「2分前着席」など学習規律を再度指導し、授業に臨む姿勢を徹底する。	・ICT 等を活用し、主体的に学習に取り組む児童が増えてきた。 ・自身の学びについて振り返る時間を設け、自らの達成状況を把握し、自分なりのめあてをもって授業に臨む姿が見られるようになってきた。 ・興味・関心のあることについて、進んで自主学習をする児童が増えてきた。	・引き続き、めあてを提示したり、振り返りの視点を示したりする。 ・振り返り時に ICT を活用して可視化することにより、学ぶ意欲を高める。 ・個別最適な学びと協働的な学びをバランスよく取り入れた授業を展開し、向上心をもって粘り強く学習に取り組む児童を育てる。

令和5年度 学力向上ロードマップ

